

2018~19年度
国際ロータリーのテーマ



インスピレーションになろう



東京赤坂ロータリークラブ週報
Weekly Report

2018~2019年度クラブテーマ
会長 小林 博茂

「手に届く奉仕、目に見える奉仕」

● 本日の例会 2019年 2月1日 通算 1512回 本年度 第 27回

卓話：「企業風土改革」一般社団法人彩志義塾代表理事 古川 裕倫 氏

● 第 1511回 例会報告 / 2019年 1月 25日

出席報告：会員 53名 / 出席 36名 欠席 17名

ゲスト：滝和美(卓話)、鈴木善久

ビジター：神子田健博(東京RC)、佐浦弘一(塩釜RC)
合計 4名(順不同・敬称略)

卓話：「ネパール国での学校支援30年を越えて」

公益財団法人日本農業研修場協力団 (JAIDI)

教育・医療顧問 滝 和美 氏



紹介者：長谷川会員

会長報告：

ロータリー財団より橋本会員へ PHF+1 のバッヂが届いております。

親睦活動委員会：(浅沼委員長)

親睦旅行のご案内です。まだ余裕がございますので、是非ご参加ください。

幹事報告：

東京麻布RCさんの例会へ伺いました。人数が少ないので、皆さんお時間がありましたらマークアップをお願いします。

2月 ピアノ演奏曲

伊勢 正三 作曲 『なごり雪』
桑田 佳祐 作曲 『いとしのエリー』
千葉 和臣 作曲 『贈る言葉』
久石 譲 作曲 『Summer』
さだまさし作曲 『北の国から』

寒い日が続きますが、心も身体も暖かくなるような曲を集めました。 ピアニスト 泉 晶子 氏



1月 25日 9件 21,000円 累計 763,000円

多額の寄付を有難うございました。(敬称略)

神子田健博(東京RC)/小林博茂/金山驍/土屋東一/石井達/長谷川毅/永滋康/森本勝好/高山宇佳

今後の予定	日付	開始時間 終了時間	場所	事項	内 容
	2月 5日	18:30	MIXX & BAR (36F) ANA インターコンチネンタルホテル東京	火曜会	テーマ：「未定」
	2月 8日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：R I 第 2750 地区 R 財団委員会 委員長 高橋 茂樹 氏
	2月 15日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：オスマン サンコン氏
	2月 22日	休 会			
	3月 1日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：TBS 犬丸 治 氏
	3月 8日	12:30 13:30	赤坂インターナショナル AIR 会議室 302	移動 例会	卓話：イニシエーションスピーチ 伊藤 久博 氏

『富山県の地酒（日本酒）の御話』

奥野 敦

皆様は、日本酒はお好きでしょうか？

各地には美味しい地酒（日本酒）が沢山ありますが、富山県の地酒（日本酒）を御紹介致します。

＜富山県の地酒の特徴＞

日本酒は水が綺麗じやないと美味しくならないです。

富山県には名水の湧き水が多く、また北アルプスからの清冽な水があり、この良質の水を仕込みに使用しています。

味の特徴としては、淡麗辛口の地酒が多いです。

すっきりとした中にまろやかさがあり、飲みあきせず、特に富山県の魚とよく合います。

また、原料のお米も山田錦、五百万石などのお酒造りに適したお米の使用割合が高く、おおよそ 80%を超えていました。このことがお酒に独特のまろやかな風味を醸しださせています。現在、富山県には大小合わせて、19の酒蔵があります。



＜私のおすすめ地酒＞

①『勝駒 純米吟醸』

山田錦で醸す純米吟醸。使用酵母は、金沢酵母。香りは控えめで、お米の旨味が艶やかにのり、硬質で凜とした上質な味わいです。

ラベルの手書き文字は、「勝駒」のファンだったという版画家の故・池田万寿夫の手によるものです。

＜有限会社 清都酒造場＞

日露戦争から帰還した初代の清都慶介が明治39年(1906)に創業。戦勝を記念して「勝駒」と命名。「富山でいちばん小さな造り酒屋」をモットーに“量産せず”“いたずらにアイテムをふやさず”、酒質第一の質実な酒造りを貫く。



②『羽根屋 純米吟醸酒 煌火 無濾過 生』

富山県産五百万石（精米歩合 50%）の純米大吟醸。

やや辛口なのに甘い香りと口当たりで呑みやすいです。

JALのファーストクラスラウンジでも提供された事があります。

＜富美菊酒造 株式会社＞

大正5年(1916)創業。品評会での金賞多数。

全てのお酒に大吟醸並の手間暇をかけて醸すという理想を掲げている。



是非、富山に御越し頂き、美味しい地酒（日本酒）を御賞味ください。

待つとっちゃん！（←とやま弁：待っています！ の意味です。）

「リスクと支援」 スカイマーク社長 市江正彦 （2019年1月1日 日本経済新聞「交遊抄」より）

中小企業基盤整備機構の西澤民夫さんと出会ったのは25年前。私は日本開発銀行（現日本政策投資銀行）の調査部に所属し、西澤さんは山一証券の関連会社の山一ファイナンスにいた。私は当時の開銀が手がけていた大企業向け融資に限界を感じ、ベンチャーキャピタル（VC）について調べていた。VCに詳しい人がいると、職場の先輩が紹介してくれたのが西澤さんだつた。

早速、電話をかけると「今すぐなら会える」との返事。あわてて向かった。初対面の私にも「すぐに会いに来てくれたから」と国内外の人脈を惜しげもなく紹介し「融資だけではなく投資も大事」と丁寧に教えてくれた。西澤さんの人脈で調べに弾みがついた。私は報告書を書き上げ、開銀で△○や事業再生ファンドの立ち上げに携わった。会社で初めて何かをやり遂げたと感じた。新事業への投資を手がけたことが、後のスカイマーク社で初めに自分がつた。西澤さんとは仕事だけではないお付き合いをさせて頂き、この間も就任にもつながつた。西澤さんとは仕事だけではなく、西澤さんとは仕事だけでなく、西澤さんは今も変わらない。リスクと隣り合わせの起業家支援で様々な経営者の姿を見てきたのだろう。最重要だ」と語る姿が何事にも熱心な西澤さんらしく印象的だつた。